

VEXA

VEXA ボイスコマンドの 認識率を上げるポイント

音声認識エンジン提供元からの回答まとめ | 営業向け共有
幹開発株式会社 2026 年 10 月 15 日

結論：認識率は「声の大きさ」ではなく「S/N 比」で決まる

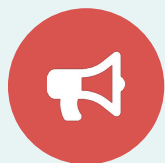
声を周囲の騒音より十分に大きく「きれいに」マイクへ届けることが重要。大声を出すとマイクが飽和して波形が歪み、かえって認識しなくなります。



10dB

S/N 比の目安

声が周囲の騒音より約 10dB 大きくマイクに届けば認識しやすい



大声 ×

声を張るのは逆効果

音量過大 → マイク信号が飽和（クリップ歪み） → S/N 比が高くても認識低下



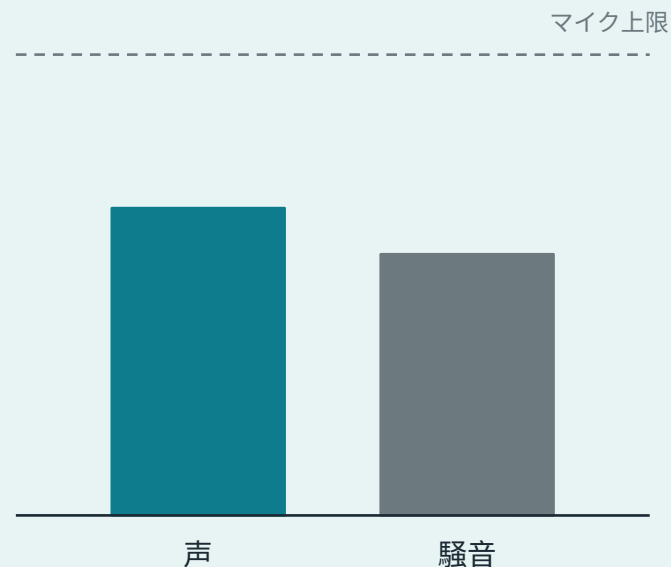
2 ～ 3 秒

コマンド間の休止

連続して話すと音声区間検出（VAD）が文を区切れず反応しない

しくみ：マイクに届く「声」と「騒音」の関係で3パターン

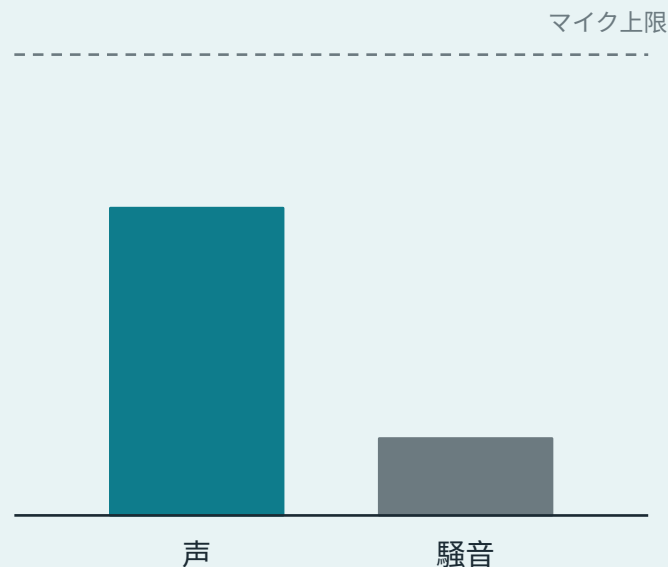
騒音が大きい



× 認識しにくい

声と騒音の差（S/N比）が小さい。ファン・BGM・騒がしい環境ではノイズに声が埋もれる。

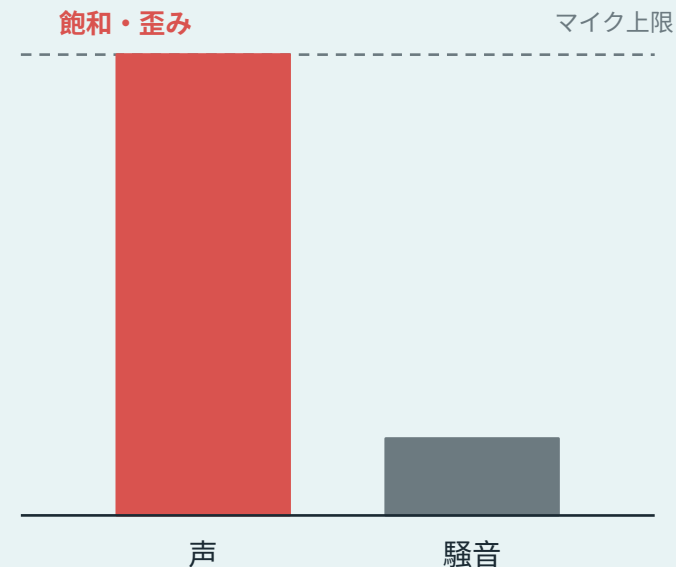
普通の声量・静かな環境



✓ 認識しやすい

S/N比が十分（目安 10dB 以上）。マイクが飽和していない範囲で、差が大きいほど良い。

大声・叫び声



× 逆に認識しにくい

マイク信号がオーバーフロー（飽和クリッピング）。波形が歪み、S/N比の数値が高くても認識不良。

お客様への案内ポイント：認識率を上げる 7つの使い方



1. 持続的な背景騒音を避ける

ファン・送風機、BGM・音楽、騒がしい環境は S/N 比を下げ、認識感度が落ちる



2. コマンドは 2 ～ 3 秒の間を空けて

連続して話すと VAD が文を区切れず無反応に。「音量上げて」の連呼は効かない



3. マイクを塞がない／反響を避ける

手・衣服・髪で覆わない。壁際や拡声スピーカー前など反響音の大きい場所は NG



4. 普通の声量ではっきり・大声 NG

会話程度の声量でコマンドの言い回し通りに。叫ぶとマイクが飽和して歪む



5. マイクに正対・正しく装着

一般目安は距離 30 ～ 80cm だが製品構造次第。VEXA はヘッドセット型のためマイク部を口元に向けて装着すれば OK



6. 冷たいミストを直接当てない

ミストファン・冷却スプレー等でマイク性能が低下。夏場の屋外イベントで注意



7. 屋外では大風防を使う

風雑音は S/N 比を下げる。風のある現場は付属の大風防を装着

現場で「反応しない」と言われたら：確認の順番

1

モードを確認

ボイスコマンドモードになっているか。出荷時はノーマルモード（OFF）。
切替：多機能キー＋「-」キー 3 秒同時長押し（音声案内で確認）

2

声量・装着・環境

大声になっていないか／マイク部が口元を向いているか／塞がっていないか／騒音源・反響・風・ミストはないか／コマンド間に間を空けているか

3

騒音が大きい現場（目安 80dB 超）

ボイスコマンドに頼らず、ノーマルモードでのボタン操作を案内
多機能キー＝ミュート切替、＋／－＝音量



逆のケース：騒音下では「誤認識」も起こり得る

周囲の会話や物音をコマンドと誤認識し、まれに意図せずミュート・音量変更が起こることがある（故障ではない）。ミュートは多機能キー 1 回押しで解除。気になる場合はノーマルモードのボタン操作も案内可。詳細は 10/7 共有の注意事項を参照。

説明時のお願い



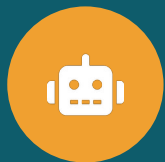
数値は聞かれたときの目安として

「S/N 比 10dB」などの数値はお客様から聞かれた場合に目安として伝える程度で十分。普段は「普通の声量ではっきり」「マイクを口元に」「大風防」の3点で案内。



他社製品名は出さない

スマートフォンや音声アシスタント等の固有名詞は出さず、「音声認識機能を持つ機器全般に共通する特性で、故障ではありません」という一般的な表現で説明。



AI 秘書（square 営業ツール）にも反映済み

本内容は square 営業ツールの AI 秘書の知識に登録済み。お客様対応中に確認したいときは AI 秘書に「ボイスコマンドが認識されない」と聞けば同じ内容を案内します。